

①経営者になるためのノート 柳井正



柳井正が語る仕事に必要な4つの力とは？ ユニクロ幹部社員が使う門外不出のノート。
欄外に気づきを書き込めば、自分だけの一冊に。

「自分で完成させていくノート」

このノートのコンセプトです。

このノートは、これから経営者になる人のために、ぜひ知っておいてほしいことを書き記したものです。

しかし、完成させていくのは、読者である、あなたです。

ビジネスをする人にとっての勉強というのは、勉強したことを実践してはじめて意味があります。単に知識量を増やすだけの「お勉強」には意味がありません。(中略)

欄外に空白を贅沢に取ったのは、あなたのこの本との対話を書き記しやすいようにするためです。どんどん線を引き、どんどん書き込み、たくさん汚して下さい。(中略)

このノートを踏み台にして、あなたに柳井正を超えていってもらいたい、それが私の心からの願いです。(「本ノートの使い方——まえがきに代えて——」より)

②あなたの人生は「選ばなかったこと」で決まる 不選択の経済学 竹内 健蔵著



「おわびのしるし」の裏に何がかくされているのか？

持ち家なら家賃は払わなくてよいのか？

なぜ各駅停車ではなく快速列車に乗るのか？

なぜ深夜タクシーに割増料金を払うのか？

ケチな人は本当にケチなのか？

その疑問に、経済学(の考え方の1つ)でお答えします！

「失恋の痛みからの抜け出し方」「接待を成功させるにはどうしたらいいのか」といったことから、金利決定のメカニズム、大規模交通インフラなどの社会資本整備の理解まで、「機会費用」という考え方を切り口にわかりやすく説明。身近なテーマから世の中のカラクリを読み解く知的レッスン！

③にんげん 船井幸雄著



人間研究40年、いま原点に戻る！

- ・経営のコツ
- ・包みこみの発想
- ・百匹目の猿
- ・エゴからエヴァへ
- ・人の道
- ・豊かに生きるための「食べる健康」
- ・この世の役割は「人間塾」
- ・イヤシロチ
- ・船井幸雄の「成功塾」
- ・長所伸展の法則
- ・ツキを呼ぶコツ
- ・未来への処方箋
- ・夢
- ・実現！！

本物の経営、日本壊死、人は生まれ変わる…。

●世の中には、ムダは全くなく、世の中で起きることは必然、必要であり、しかもベストになる

■目次

●第一章 絶対的常識がくつがえりつつある

——びっくり現象の続出で世の中大混乱

●第二章 最近の一〇年、有識者は密かに「アセンション」の研究をしている

——日経新聞、精神世界、オーリング・テスト

●第三章 ようやくわかった大事な諸事情

——ここまでわかった世の中の構造

●第四章 これからこう生きよう

——にんげん、生き方のポイント

●第五章 いよいよ「世の中」分岐点

——話題のホームページ「船井幸雄・COM」に見る時代の変化

④日本史真髄 井沢元彦著



逆説シリーズ著者が「日本史の極意」を公開

井沢元彦氏のライフワーク『逆説の日本史』は、シリーズ累計 510 万部を突破する歴史ノンフィクションの金字塔ともいべきロングセラーです。最新刊『日本史真髄』は、これまで編年体で展開した「逆説」シリーズとはまったく視点を变えて、「ケガレ」「和」「怨霊」「言霊」「朱子学」「天皇」の6つのテーマで日本史全体を捉え直し、日本人の思考や行動を呪縛するものの正体を歴史的事件から読み解いていきます。

例えば、江戸時代の歴史は、朱子学が分かってないと理解できません。織田信長が明智光秀に殺された本能寺の変を目の当たりにした徳川家康は、主君への忠義を絶対とする朱子学を導入し幕府体制を盤石にしました。ところが、その朱子学のために尊皇論が起こり、二百七十年続いた幕府は倒されてしまう。なぜか。徳川家は「覇者」であって天皇家こそ真の「王者」とする朱子学の思想に武士達が目覚めたからです。この朱子学の影響は、士農工商という身分差別や幕末期の日本外交にまで悪影響を与えているのです。

井沢氏が三十年以上かけて体得した「日本史を理解する極意」をすべてさらけ出した「逆説史観」の真髄。この一冊で百冊分の教養が身につく決定版です。

⑤人生のリスク管理 松尾直彦著



“不安の種”を取り除くスリに！

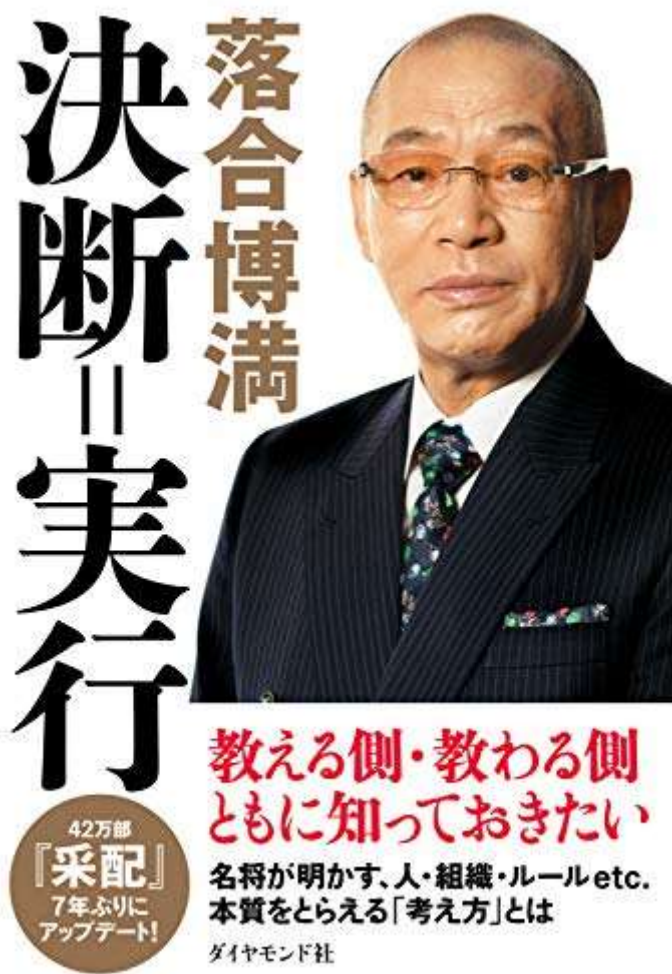
大蔵省・金融庁に 23 年間勤務後、弁護士・東大客員教授に転職した著者が、「健康」「お金」「仕事」「住まい」「介護」「相続」に関するリスク管理を自身の体験談を交えて明解

⑥この国のかたち 司馬遼太郎著



日本は世界の他の国々とくらべて特殊な国であるとはおもわないが、多少、言葉を多くして説明の要る国だともっている——長年の間、日本の歴史からテーマを掘り起こし、香り高く稔り豊かな作品群を書き続けてきた著者が、この国の成り立ちについて研ぎ澄まされた知性と深く緻密な考察をもとに、明快な論理で解きあかす白眉の日本人論。

⑦決断=実行 落合博満著



名将が語る、人・組織・ルール etc.本質を捉える「考え方」とは？

指導のあり方や価値観の転換点にある今、

私たちは何をどう選択し、決断し、行動すべきなのか。

指導者する側・される側ともに読みたい。

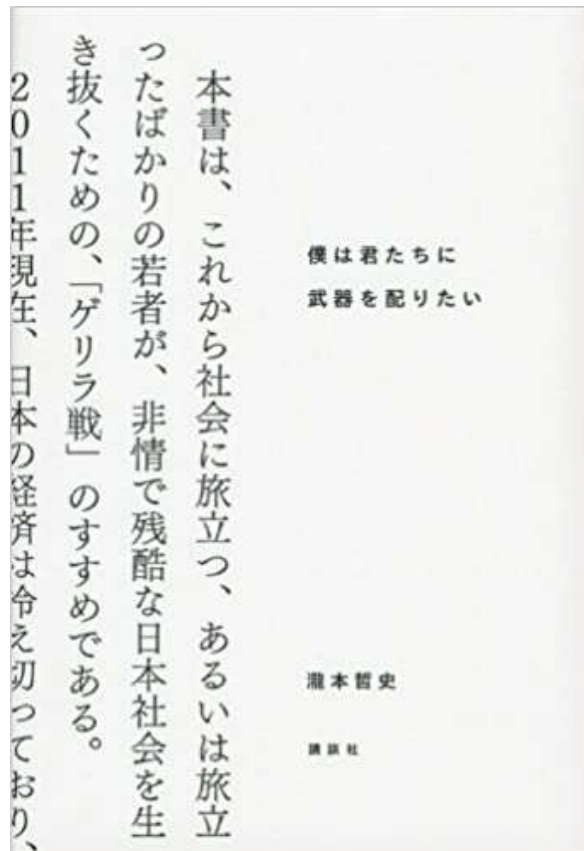
時には常識を疑い、物事の本質を鋭く捉える落合博満氏。

落合氏ならではの着眼点や、選手・監督等の豊富な経験からの気づきの数々は、野球関係者はもちろんのこと、多くのビジネスパーソンにとっても示唆に富むものである。

決断=実行/目次

- ・仕事に取り憑かれろ
- ・監督への就任要請を受け
- ・監督として私が肝に銘じたこと
- ・荒木と岩瀬が自分で壁を乗り越えるために
- ・少数意見をどうとらえるか
- ・組織とは小さな「ピラミッド」の集まり
- ・「負けたくない」というプライドがもたらした優勝
- ・最終決定権は誰が持つべきか
- ・遠近 2 つの距離から選手を見続ける
- ・チームを進化させなければまず基本から
- ・チームリーダーやムードメーカーは必要か
- ・「同じことをしていたら勝てない」の意味
- ・自分の技術を向上させるためには
- ・一芸に秀でなければオタクを目指そう
- ・一石二鳥の練習はあるか
- ・好奇心は自分を成長させ、感性を豊かにする
- ・控え選手とはどう接すればいいのか
- ・「時代遅れ」にあえて耳を傾けよ
- ・選手の不調、チームの苦境との向き合い方
- ・勝てるデータ活用術
- ・新人や若手の起用で気をつけたいこと
- ・森繁和ヘッドコーチとの思い出深いベンチワーク
- ・人材登用における私の考え方
- ・大原則や当事者の「思い」は考慮されているか
- ・大谷翔平の成功を私なりに考えた
- ・ユニフォームで考える物事の本質
- ・指導者が批判される時代に、選手に求められる姿勢とは

⑧僕は君たちに武器を配りたい 瀧本 哲史 著



東大、マッキンゼーを経て、現在、京大で絶大な人気の瀧本先生が、新しい経済の流れで、自分の力で道を切り開き、ゲリラとして生き残るための「武器」について、投資家としての経験から、語ります!

20代が生き残るための思考法

東大、マッキンゼーを経て、現在、京大で絶大な人気の瀧本先生が、新しい経済の流れで、自分の力で道を切り開き、ゲリラとして生き残るための「武器」について、投資家としての経験から、語ります!

不安に立ちすくむ日本人が今学ぶべき「本当の資本主義」とは。

「星海社新書」001 著者、同時発売で登場!

【目次】

はじめに

第1章 勉強できてもコモディティ

第2章 「本物の資本主義」が日本にやってきた

第3章 学校では教えてくれない資本主義の現在

第4章 日本人で生き残る4つのタイプと、生き残れない2つのタイプ

第5章 企業の浮沈のカギを握る「マーケター」という働き方

第6章 イノベーター=起業家を目指せ

第7章 本当はクレイジーなリーダーたち

第8章 投資家として生きる本当の意味

第9章 ゲリラ戦のはじまり

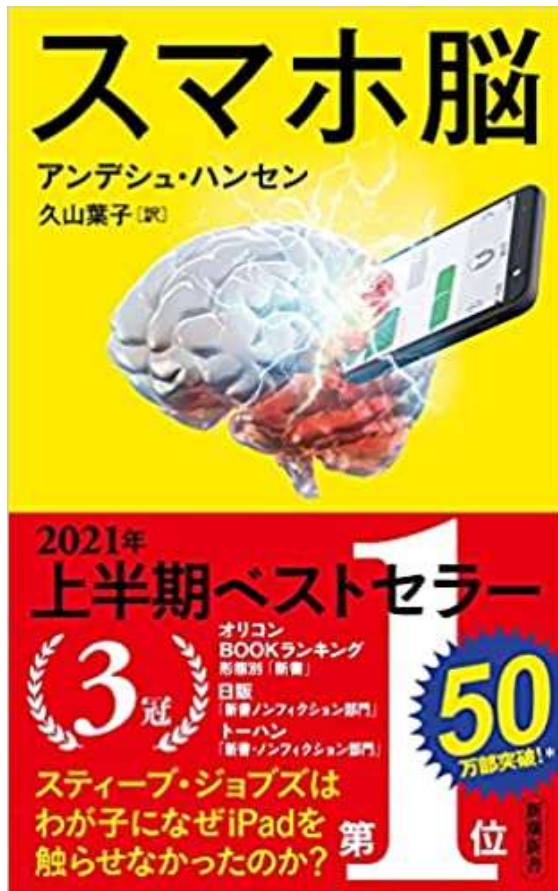
本書で手に入れた武器

⑨易経〈上・下〉（岩波文庫）



いわゆる五経の第一にあげられる中国古典で、周代に大成されたから『周易』ともいう。宇宙・人生の森羅万象を陰陽=爻の変化によって説明し予言する書。東洋思想の根幹をなす哲学書でもある。本文庫本は原文・読み下し文に現代語を付して一般の読者にも味読できるようにするとともに、『易経』の根本思想を中心に懇切周到な解説を加えた。（巻2巻）

⑩スマホ脳 アンデシュ・ハンセン著



スティーブ・ジョブズは
わが子になぜ iPad を
触らせなかったのか？

『一流の頭脳』の著者が脳科学の最新研究から
明らかにする恐るべき真実
世界的ベストセラー、日本上陸!

- ・わたしたちは 1 日平均 2600 回スマホに触り、10 分に 1 回手に取っている
- ・現代人のスマホのスクリーンタイムは 1 日平均 4 時間に達する
- ・スマホのアプリは、最新の脳科学研究に基づき、脳に快楽物質を放出する〈報酬系〉の仕組みを利用して開発されている
- ・10 代の若者の 2 割は、スマホに 1 日 7 時間を費やしている
- ・1 日 2 時間を超えるスクリーンタイムはうつリスクを高める
- ・スマホを傍らに置くだけで学習効果、記憶力、集中力は低下する
- ・世界の IT 企業の CEO やベンチャー投資家たちの多くは、わが子のデジタル・デバイスへのアク

セスを認めていないか極めて厳しく制限している

・フェイスブックの「いいね!」の開発者は、「SNS の依存性の高さはヘロインに匹敵する」と発言している etc,etc....。

本書を手に取り、ぜひお確かめください。

⑪となりのクレーマー―「苦情を言う人」との交渉術 関根 真一著



苦情処理のプロが、1300 件以上を対応した体験とそこから得た知見から、相手心理の奥底まで読んで対応する術を一挙に伝授する。イチャモン、無理難題、「誠意を見せろ!」、「ふざけるな!」、詐欺師、ヤクザ…次々登場するクレーマーとのバトルの実例が余りにリアルだ。こわい、異常だ、はらはらする……でもかなり面白い「人間ドラマ」の数々。「苦情社会」の到来で、どこにでもある、誰もがなりうるコマッタ人への対処法を一冊にした話題作。

⑫「空気」の研究 山本 七平著



昭和 52 年の発表以来、40 年を経ていまだに多くの論者に引用、紹介される名著。

日本人が物事を決めるとき、もっとも重要なのは「空気」である。

2018 年 3 月にも、NHK E テレ「100 分 de メディア論」で、社会学者・大澤真幸氏が本書を紹介し、大きな反響があった。

日本には、誰でもないのに誰よりも強い「空気」というものが存在し、人々も行動を規定している…

…。

これは、昨今の政治スキャンダルのなかで流行語となった「忖度」そのものではないか！

山本七平は本書で「『気』とはまことに大きな絶対権を持った妖怪である。一種の『超能力』かも知れない。」「この『空気』なるものの正体を把握しておかないと、将来なにが起るやら、皆目見当がつかないことになる。」と論じている。

それから 40 年、著者の分析は古びるどころか、ますます現代社会の現実を鋭く言い当てている。「空気を読め」「アイツは空気が読めない」という言葉が当たり前に使われ、誰もが「空気」という権力を怖れて右往左往している。

そんな今こそ、日本人の行動様式を鋭く抉った本書が必要とされている。

『「水=通常性」の研究』『日本の根本主義(ファンダメンタル)について』を併録。

日本人に独特の伝統的発想、心的秩序、体制を探った名著である。